

沖縄県ハンドボール協会 スポーツインテグリティ研修会 (2023・2・26③)

昨日は研修会にご参加頂きありがとうございました。皆さんの「私は、いま、こう思う」を個人が特定できないように加工して一覧にしています。研修会内で「自分の価値観」を言葉にし、ペアディスカッションで「他人の価値観」を知り、この振り返り Paper で同じ研修会内での仲間の「多様な価値観」を学ぶことに繋げてもらえればよいと思います。

今指導している子ども達だけでなく、自分の子どもにも活かせる内容だと感じました。指導しているチームに自分の子どももいて、他の子ども達とは違う、より厳しい指導をしていました。自分の子ども、他人の子ども、双方の将来を考えた指導者になるべきだなあと考えを改めさせられました。指導力を付けていきたいです、勉強します。

今回の講義で、分かりやすい事例をもとに、今のスポーツ指導のあり方を学ぶことができました。スポーツ指導においても時代に応じて教師側が学ばなければならないことがたくさんあると知ることができました。今後も生徒のために学び続ける先生になるように頑張りたいです。

小学校への指導方法を考える機会になった。自分の中でまだ理想の指導者像というのがまだわからない。イメージがついていない状況が続いている。体罰、暴言がダメなのは重々分かっている事だが大声をあげてしまっている。自分の指導方法を考えさせられる良い機会になりました。暴言が子どもの成長に影響する。将来(子ども達が成長して色々な立場に立つようになっていく)に続いていく。という考えを持って指導していきたい。

今回受講してみて、自分自身がどんな指導者なのか振り返るととてもいい講義だったと思った。体罰や暴言がダメではなく、選手自体が今後ハンドボールを楽しくそして競技として真剣に向き合えるような声かけ、技術指導が必要になってくるのだと思った。私は、指導者として各カテゴリーで楽しみながらハンドボールを生涯スポーツにしてほしいと意識しながら指導していきたいです。また、ハンドボールを通じてできた人との関わりを大切に、何歳になってもいつでも帰って来たいと思えるようなチーム作りをしたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

体罰や暴言によって「道を外れなかった・成長した」子どもよりも、その何倍、何十倍も「不幸せになった」子がいるという言葉が胸に残りました。やっぱり体罰や暴言は良くないという考えになり、生徒への声かけや指導の仕方をその都度振り返ろうと思いました。周りでそのような場面に出会った時に勇気を出して止めるのは難しいなと感じていましたが、今日の講話を聞いて、仲間を守るためには必要だと感じました。生徒には Good Loser、Good Winner の話をして、相手を讃える、仲間に感謝する心を育てて欲しいなと思いました。そういうことを伝えられる指導者を目指して頑張りたいと思います。

今回の講習会を受けて、1 番感じたことは勝利と高潔さの背反する二面性をどのように自分自身が消化し、生徒へどのような働きかけを行うのかを考える機会となりました。ハラスメント行為が選手の成長に対して悪影響を及

ぼすことを再認識したとともに、それをさせずにどのように生徒を成長させていくかを常に考え学び続けていかなければいけないと感じました。そのために指導にあたるスタッフ、保護者、選手ともに協力しあい生徒が成長を実感できるようにコーチングしていきたいと思います。本日はありがとうございました。

自分自身が学生の頃に受けていた指導方法と今の指導方法に違いがあることは理解しているつもりです。ハンドボール経験者では無いので技術面に関して口にするのは無いのですが、最低限のマナーを指導する際にどうしても大声出す場面がありますが、特定の児童を指すことのないようにしています。子供たちもいろんな情報ツールに囲まれ生活しています。知恵も付いているはずですが、力づくで言い聞かせる積もりもありません。プレー以外のことからでもいいのでコミュニケーションを常に取り、大人(自分)に対して理解してもらい、信用信頼してもらいことから大事だと思う。

体罰・暴言はダメだと再確認できた講習でした。指導の仕方、言葉の使い方などに注意して指導を続けていきたいと思いました。自分がそういうつもりではなくても、周りで見ている人がそう捉えたら「体罰・暴言」になるということを入れておく必要があると思いました。

2月26日の講習会に受講させて頂き、改めて、指導の難しさや、自分の指導の気づきのきっかけになりました。体罰の捉え方が私達の指導の言動一つ一つでも変わってくることを、改めて実感しました。私の競技時代は体罰だけの時代でしたので、こんな指導者にはなりたくないし、いつか超えて見返してやろうという気持ちで頑張っていたことを今でも覚えています。今日の講習会でも出ていましたが、私の尊敬出来る指導者の言葉ですが、常に子供達から学なさい。と言われていました。学ことを止めたなら、そこで指導は止まるので、指導者としては、やめなければいけない。その言葉の意味を今日の講習会でも、再度、私自身の指導に置き換えさせられ、気づかされました。

私がハンドボールをしていた頃は、体罰や暴言が当たり前の環境で、今はそれを肯定する人も、否定をする人が存在する。今、それが禁止とされている中、なぜまだそういう人が存在するのか…そこを考えさせられました。見てみるふりしている自分、周囲が子供達を守ってあげられてない現状(何も言わせない様な雰囲気)、そんな環境を作ってしまったことに気付かされました。では、勇気を絞って言えるか…それは私には難しい。ただ…今の環境を変えることをみんなでできるのではないかと、思いました。まずはできることから、現代の子供達を守り、自信をつけさせ、その子が持っているいいところを伸ばしていきたい！体罰や暴言は一生心に残る…私は今でも残っています。その記憶が強く、体罰によって何が改善されたかは記憶にない。そんな意味のないことはなくなって欲しい。私は絶対体罰はしない。でも、暴言に関して振り返る…子供達を傷つけてはいないか…反応的になる言葉には今後も気をつけていきたいと思います。言葉のかけ方、言葉の使い方をもっともっと学びたいと思いました。

今日の講習会を受けられてとても良かったです。私たちだけでなく、学校の教職員や生徒にも聞いてほしいと思う内容でした。講義の中であったスポーツの矛盾を理解しながらダブルゴールを目指すことでは、生徒とチームのことを話す会話の中でよく出てくる悩みの部分で、もっと勉強したいと思いました。また、体罰に関しては基準がわかりやすいですが、暴言の部分では人格否定をしなくても、相手が傷ついたらいじめとなるように、相手によって

基準が変わるのだと思うと、暴言をしないようにすることは意識していても難しいように感じました。一部分だけが切り取られ、前後の文脈や背景は見てもらえないことから、熱い気持ちがあり子供たちに伝えたいからこそ、一度冷静になり発する言葉は考えていきたいと思いました。生徒と指導者はお互い尊敬し合えるように、私たちが決して上からではなく、人として言うてはいけない言葉をもう一度認識し、頑張っていきたいです。そして、これが子供たちだけでなく、指導者同士にも敬意をもって過ごせるように頑張りたいです。練習試合をしてもらえる、審判をしてもらえる、大会を運営してもらっている、感謝や思いやりの気持ちを持ち、皆がスポーツを通して幸福に過ごせるようプレイヤーズ・センタードの心構えを忘れずにしていきたいと思いました。今日は貴重な講習会を開いていただき、ありがとうございました。

今回の講習を受けて、考えさせられる事が多々ありました。私が今までやっていた事や発言が子供達にとって心罰になっていないだろうか、伝えたいことを伝えるための関係性は築けているだろうか。なにか反省する場面が多かったように感じます。少し怖くなってしまったのも事実です。ハンドボールを通じて、楽しませたい、喜ばせてあげたい、その子達 1 人 1 人の良いところをたくさん見つけてあげたい。私自身が子供達から学んでいき、一緒に楽しみたい。その思いを忘れずに関わっていきたいです。

受講した中で、「体罰、暴言を受けて立ち直った生徒より、辞めていった、もしくは道を絶たれてしまった生徒の方が多し」という言葉にハッとさせられました。本当にその通りで、心に留めておきたいと思います。私自身は、今現在の状況で絶対にしない。と誓うことができますが、月日が経った時、または環境が大きく変わった時には、そのような行動に出るのでしょうか。今ある自分の指導を客観視し、定期的に振り返って確認する事を続けたいと思います。貴重な講義を聞いてよかったと思っています。ありがとうございました。

講習会を受け終わった今。やってきた事を見返す機会になりました。ハンドボールをしている子供達にどの指導者も見えて見ぬふりではなく、声かけして見ているんだと言う成長段階の小学生カテゴリー必要な事なのかも。指導者共々勉強しつつ子供達と一緒に成長する為の講習会が今後必要なのかと。

講習会の計画、運営、お疲れ様です。今日の講習会を受けて、体罰・暴言などについて再確認する事ができました。私は感情的になってしまう事があるので、気をつけながら接するように心掛けています。しかし、受け取る生徒がどう感じているのか、正直わかりません。指導するにあたって、技術面だけでなく、話し方や伝え方など色々学ばなければならないなと思いました。また、部活動の目的は人間力の育成だと思います。私自身が部活動を通して育ててもらったからです。私は中学校から部活動を始めましたが、中・高・大と指導者に恵まれていたんだなど、大人になって、指導する立場になって実感しています。私がお世話になった分、生徒に関わる事で恩返しをしているつもりです。できているかはわかりませんが…。私がプレイヤーとして学んだ事や、教師になって生徒達から学んだ事、今日の研修会で学んだ「プレイヤーズ・センタード」など、今後の指導に活かしていきたいと思っています。色々な苦情や意見がある中、このような研修会を開催して下さりありがとうございました。

本日は、自分自身を振り返り、見つめ直さる時間を設定頂き、感謝を申し上げます。正直、活動中(練習中)、子供等に対して暴言(バカ!)が、ありました。その事によって、子供等の心に傷をつけている事に対して、自身の心が痛くなりました。今後は、活動に入る前に、子供等を守る為・チームスタッフを守る為に『体罰・暴言は No』と、唱

えから活動をスタートします。三輪先生が話された『心の師となる指導者を目指して』を意識し、考えて行きます。

神奈川県で監督さんの事件がショックだった。コーチ 3 の講習を受けて、かつ素晴らしい感想文を残していたのに、何故？と…。もしかして、自分もその可能性があるのかも…と怖くなった。そうならないためにも、『学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない』ということが、身に染みる。ハンドボールを通して、子供達の成長を願うのは指導者として当然のこと。今日は普段話したことがない指導者の方と話をし、考えが似ていて楽しく、実りのある会話がたくさんできた。暴力・暴言はもちろん否定派。ただ、時代の変化についていけない部分があったので、知識をアップデートしなければと焦りもでた。指導者である以上、ハンドボールのことも、指導方法のことも、学びを続けなければと改めて思いました。

研修会ありがとうございました。生徒や同僚、自分の為にも体罰や暴言を周りの環境から無くして、生徒の良き心の師となる指導者になれるよう柔軟な指導ができるよう学びを続けていきたいです。

「ハンドボール」は私の人生に欠かせないものになっています。高校でハンドボールに出会い、(体罰や暴言のある環境でしたが)ハンドボールを通して成長することができました。今では私の大切な支えです。子どもたちが「ハンドボール」に出会い、「最高の人生になった」と実感できるように、ともに学び続けるコーチをになります。今回の研修はハンドボールに対する想いを深める場になりました。周りの同士とチームになり、これからの指導につなげます。今回の研修に関わった方々やすべてのカテゴリーで指導する方々への感謝の気持ちを忘れず、目の前にいる子どもたちと向き合います。

体罰は犯罪、虐待だという事を再認識出来ました。私は仕事柄、児童虐待やDVを取り扱った事がありますが、体罰と同じで「遺伝」すると思います。私の子供三人は中学生と小学生でハンドボールを学んでいます。後輩への指導は私にそっくりです。私は厳しくも優しい、愛情ある父親のような、怒るのではなく叱れる指導者を目指しています。子供達と共に学び、一緒に成長出来る指導者になりたいと思います。勉強になる本当に良い講習会でした。ありがとうございました。

私は、ハンドボールを通して、体罰を受けたことはない。むしろ、自信と勇気をもたらした。改めて、よき指導者に出会えたと思う。情熱ある指導と逆境でも常に前向きな考え、言葉は、今の私を支える根幹になっている。今回の研修を通して、恩師のこと、これまでの私の指導を振り返る機会となった。言葉一つひとつを大事にして、子ども達へ関わっていったらと思う。

本日の講義を受けさせて頂いて、自身を振り返ると、エゴだと言われても仕方ない様な事を、我が子を筆頭に言っていたんじゃないかと、考えさせられました。私は、小学校・中学校で携わっていますが、人として、これから先大人になった時、この経験が、我々が伝え続けた事が、いつか役に立ってくれる事を願い、今まで指導させて頂いていました。しかし、言葉が適切だったかどうかを問われると、正直考えるところがあります。日々精進し、子供から教わる沢山の事を、大人として、親として、そして指導者として常に考え続けなければならないなど感じました。私は体罰といわれているものを受けてきましたが、私自身にとっては、その経験のお陰で今の自分があります。しかし、これはあなたにとってであって、他の子供たちにはそうではないと言われ、分かってはいましたが、やっぱりそうだよなあと思いました。今の時代の子供たちとの関わり方を見直すきっかけになりました。しかし、思いは間

違っていないと信じ、どう伝えていくかを考えようと思います。本日は考えるきっかけ、振り返るきっかけを頂き、ありがとうございました！

私は暴力、暴言がある時代とない時代の両方を経験した世代にハンドボールをしていました。暴力、暴言は良くないこととわかっています。ですが暴力、暴言をされた経験を持ちながら当時の顧問とは連絡を取り合って良い関係を築けています。そうじゃない方がいるのも分かっています。それ以前に私は暴力、暴言が善か悪かという問題よりも気になることがあります。それは、暴力、暴言を行使して人間を育ててきた世代の人達に、暴力、暴言を使わずに人間を育てられるのか？ということ、そしてそれはどのように、誰が良しと判断するのか、です。今日の講習で「その経験がある人」というセッションが3分である事に笑いが起きていた事が残念さを物語っています。散々今までやってきた人達が手のひら返しのように、暴力、暴言はいけないんだ！今はその時代じゃないんだ！と口を揃えているのを見ると、今現在の日本の政治、縦社会となんら変わらないと感じます。講習の中で「子どもたちと対等な立場に立つ事が急には不可能だ」と仰っていましたが、それは大人たちが自分の間違いや子どもたちに正論を言われて認めることが出来ないからです！それを暗黙の了解のように目を伏せている事が問題なのです。アメリカではそのような事態は起きません。それは周りの大人たちが許さないからです。でも日本は歳上の方が絶対という風習が後を絶ちません。そんな大人たちはいつまでも暴力、暴言はやめないでしょう。そして同僚や部下、子どもたちから指摘をされても認めません。それが今の社会です。今日の講習を終えて私自身は賛成でも反対でもありません。子どもたちとハンドボールをしている時間も子どもたち 1人ひとりも私にとって大切な宝です。その宝を傷つけないように、一勝よりも一生を常に意識しながら学びを止めずに子どもたちと、ハンドボールに携わっていきたいと思います。貴重な講習をありがとうございました。

自チームの男子がよく仲間や別のチームを Respect (他者を尊敬) する。とても大事な事だと思う。普段から暴言を吐くのではなく喜びを与えられる言葉掛けを意識し指導するように自分や他指導者にも伝えていきたい。時代遅れの指導者にならないために指導方法をこれからも学びたいと思った。

指導という考え方を改めて考え直すキッカケになりました。研修最後の方で、まとめではなく始まりという事が印象に残っています。1回キッカケを頂けて変わった気ではないのではなく、そこからまた新たな学びを得るのだと思います。大人も子供も同じで、1回だけで言葉や違う価値観、考え方は身につきません。繰り返し反復するのも大切だと思いました。また、体罰や暴言をされる人だけでなく、周りが見たり聞いたりすることも影響がある事に感同しました。私のこれまでの指導者のほとんどが、体罰や暴言等をしない方々でしたが、私の周りでそれをされると緊張していました。脳の萎縮は納得です。周りも恐怖感があり、それがいつ自分にくるか分からない怖さがあります。その点からもいじめとの関連性も納得です。自分でこのような体験をしているのにも関わらず、指導者という立場になるとこの思いが薄れてしまったり、忘れてしまう部分もあると感じました。子供本人の意図とは関係あるかないかは本人にしか分からない分、コミュニケーションを指導者から積極的にとるべきだと改めて思いました。様々な指導方法がある中、どのような事を選択していくかしっかり学んでいきたいです。現在の指導で、よく子供達に伝えていることが、自分で考えて動く=考動(こうどう)です。答えを知っている人に聞いて正解をすぐ知りたがるのではなく、自分で考えたり仲間と一緒に考えていくことが学びに繋がると思っています。そこでの失敗も成功も全て子供達に繋がる。失敗させないように、傷つかないように思っていました。大人や指導者が待つ、という場面も大切だと思いました。これからの子供達の将来の為にも一緒に学び続ける指導者でありたいと思いました。

今回の研修を受講して、自分自身、体罰はしてないが暴言を言っておりそれを容認していました。しかし、この10年で体罰は減ったものの、暴言が増え全体としては体罰、暴言が増えている現実を目の当たりにし、自分の意識を変えなければならぬと感じました。そして10年後暴言も減り体罰、暴言のない部活動を実現できればと思います。また、ハンドボールでは試合の際、監督やコーチ、ギャラリーからの審判への抗議が怒声や暴言がまだまだ多いと感じます。そういうチームの試合に審判として割り当てられたときもう審判をしたくないと強く思います。こういったマナー面についても講義内容に組み込んで頂きたいです。今回は今後の自分の部活に対する向き合い方を改めて考えるいい機会になり、充実した時間になりました。

本日は「沖縄県ハンドボール指導者研修会」を開催して頂きありがとうございました。私は、十数年前に一般の女子ハンドボールチームに所属しており、講師の三輪先生には女子リーグで大変お世話になりました。その頃から沖縄県のハンドボールを良くしていくための活動に尽力されており、現在も変わらず沖縄県ハンドボール協会の向上の為に尽力されている事に感慨深く感謝の気持ちで拝聴させて頂きました。私は県外の大学にスポーツ一般推薦で入学し、将来は教員になりたいと希望を抱いていましたが、大学のハンドボール部のコーチは体罰や暴言が日常的にあり、高校までとは全く異なる指導方法にショックが大きく、毎日のようにハンドボールを辞めたいと悩んだ記憶があります。先輩や同級生、後輩に対しても同様の指導方法でした。三輪先生の仰っていた、自分が受けた時だけに限らず先輩や後輩に体罰や暴言を見た記憶は消える事はありませんし、私自身が受けた体罰や暴言が記憶から消える事はありません。絶対に体罰や暴言はあってはならないと思います。私は現在小学生の指導者として沢山の先輩指導者と共にハンドボールを楽しく、上手になる喜びとハンドボールを継続していけるような環境作りのチーム方針の元活動しておりますが、その中で、時折自分を客観視する時間を持ち、子ども達や保護者のみなさん、同じ指導者からどう見られているか自分を見つめ直す時間を持ちたいと感じました。そして、今日がスタートの気持ちを忘れずに日々精進したいと思います。本日は貴重なお話をありがとうございました。

学生時代(30年前)は、監督からの厳しい指導は当たり前だと思っていました。保護者として関わり始めた部活での指導から、外部コーチとして関わるようになり、指導する事の難しさを感じています。自分の学生時代に受けた厳しい指導は「勝つために」「自分達が出来てないから」などと思いながら必死に食らいついていた思い出があります。あの時代は、あれが当たり前だと思って頑張っていました。最近では指導方法に関する問題をよく耳にする事が多く、今日の研修に参加させていただき、指導者の役割と責任について深く考えるきっかけを与えて頂きました。「良き敗者」「良き勝者」「スポーツインテグリティ」を意識し、子供たちや保護者の方々とコミュニケーションを図りながら学びを構築していきたいと思います。これから自分がどのような指導者になりたいか？再確認をしながら、指導者として必要な事、大切な事を考えながら子供たちと一緒に成長できるように頑張りたいと思います。

私は高校時代、新里泰一先生という素晴らしい監督に指導していただき、全国総体ベスト8の実績を収めることができました。今でも感謝しています。ところが、私が高校の3年間で一番競技力が向上したと実感した瞬間は、引退した後の、ノープレッシャー、ミスを怖がらない伸び伸びハンドボールをしたときでした。同級生の殆どがそうでした。もちろん、新里先生に教えて頂いた技術の賜物ですが、それを発揮するのは、楽しむ事が大事だと実感しました。「好きこそものの上手なれ」。この言葉が私の指導方針です。選手も保護者も指導者も、クリエイティブでポジティブな発想で楽しくできれば、自ずと強いチームになるはず。私は会社で支店長をしていますが、職場経営もまるで一緒に、楽しい職場のほうが、やはり業績が良い傾向にあります。周りから応援される、応援したくなる

ようなチームを作りたいと、改めて思いました。三輪先生、貴重な講義ありがとうございました。大変勉強になりました。沖縄県ハンドボール協会の皆様、素晴らしい企画ありがとうございました。

今回受講してみて、自分自身がどんな指導者なのか振り返るととてもいい講義でした。体罰や暴言がダメではなく、選手自身が今後ハンドボールを楽しくそして競技として真剣に向き合えるような声かけ、技術指導が必要でこれらを意識して指導するとおのずと体罰は無くなっていくのではないか思った。また、選手一人一人目標は違うので寄り添いあいながら指導者がすることが大切だと実感した。私は、指導者として各カテゴリーで楽しみながらハンドボールを生涯スポーツにしてほしいと意識しながら指導していきたいです。また、ハンドボールを通じてできた人との関わりを大切に、何歳になってもいつでも帰って来たいと思えるようなチーム作りをしたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

講習を聞いて感じたのはハンドボールだけでなく国全体の教育を通して何十年計画かで企画を立て、取り組むべきだと感じた。少し曲がった意見かもしれないが、結果を出すことに拘る事をした時に暴力・暴言より楽しませた方が結果が出る、もしくはトッププロが口々にそれを発信する、伝えている現状を作る仕組み・結果を出さなければ変わるのは中々難しいのかもしれないと感じた。アンダーカテゴリーからの教育はもちろん大事だが、トップダウンをすることによって全体の取り締まりと一貫性を持った取り組みになると感じた。また、勝ちにこだわりたい子どもと楽しめればよいと思う子供たちの両立について考えるべきとも感じた。個人スポーツであればその両立は可能だと感じるが団体スポーツとなると意識の差が選手のモチベーションに直結することがある点とその中での選手同士のいざこざ・孤立も考えられる。学校スポーツ(部活)で出来ることとクラブ化を取り入れ高いレベルでやりたい子の支援を入れることが必要かと感じた。今回の講習において普段関われない方とのディスカッションの場もあり、大変有意義な時間となった。今後の活動へ活かし、子供たちへより良い刺激・環境を与えられる、自分の成長へ繋げるよう励んでいきたい。ありがとうございました。

こわくなりました。私が今までやってきた指導は大丈夫だっただろうか。大丈夫！だなんて誰も言ってくれない、わからないことだからこそ、本当に自分が気をつけるしかない場面が多くあると強く感じました。プレイヤーズ・センターという言葉をはじめて耳にしましたが、その言葉をいつも心に持つておこうと思います。

日々の練習指導において「暴言」がないように気をつけていますが、「暴言」は「激しく怒る(怒鳴る)」だけではないと教えていただき、あらためて自分の指導を省みております。小学生の部活動に関して教育的意義を強く感じております。「学ぶことを止めたなら教えることを辞めなければならない」。部活動が子どもたちにとってより良い学びの場になるよう自己研鑽に努めてまいります。

現在指導者としての経験がまだ浅く、正直指導方針や指導方法などは周りを見たり、聞いたりして模索している状況です。今日の話聞きながら自分を振り返り、今の時代にあった指導方法の難しさを感じたのが正直な感想です。これからの指導はそういったことも意識し、また勉強していかなければならないと考えさせられました。